



はじめに

石川, 慎一郎

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 465

(Issue Date)

2023-03-10

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100479377>



はじめに

本報告書は、2022年度に実施された統計数理研究所共同利用研究（一般研究1）「言語・学習・統計：統合的アプローチの検討（An integrative Analysis of Language, Learning, and Statistics）」（課題番号：2022-ISMCRP-1019）（研究代表者：石川慎一郎）の成果をまとめたものである。本報告書は、統計数理研究所共同研究レポート No. 465 として刊行された。

代表者・報告書編者

石川 慎一郎 神戸大学 教授

所内共同研究者

前田 忠彦 統計数理研究所 准教授

共同研究者（上記2名を除く）

井上 聡 環太平洋大学 教授

中尾 桂子 大妻女子大学短期大学部 教授

今道 晴彦 広島大学 准教授

李 楓 西安理工大学 准教授

森下 裕三 桃山学院大学 准教授

張 晶鑫 湖北大学 准教授

中西 淳 大阪工業大学 特任講師

鄧 琪 東北大学 講師

肖 錦蓮 華南農業大学 講師

曹 卓琦 湖南農業大学 講師

陳 迪 神戸大学大学院国際文化学研究科 博士後期課程

廉 沢奇 神戸大学大学院国際文化学研究科 博士前期課程

飯島 真之 神戸大学大学院国際文化学研究科 博士前期課程

発行所 統計数理研究所（〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3 Tel 050-5533-8500）

発行日 2023年3月10日

オンライン版発行所 神戸大学大学教育推進機構石川慎一郎研究室（〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 1-2-1 Tel 078-881-1212）

過去の研究課題・レポート番号

平成 17 (2005) 年度

言語コーパスからの共起語検出における統計指標の研究 (No. 190)

平成 18 (2006) 年度

日英語の基本語の抽出における統計 (No. 199)

平成 19 (2007) 年度

学習者コーパスの解析に基づく客観的作文評価指標の検討 (No. 215)

平成 20 (2008) 年度

コーパス言語研究における量的データ処理のための統計手法の概観 (No. 232)

平成 21 (2009) 年度

言語コーパス分析における数理データの統計的処理手法の検討 (No. 238)

平成 22 (2010) 年度

コーパスを用いた記述的言語研究と統計 (No. 256)

平成 23 (2011) 年度

統計手法を利用した言語データ分類 (No. 277)

平成 24 (2012) 年度

計量的言語データ処理法研究 (No. 290)

平成 25 (2013) 年度

言語変種調査における統計処理 (No. 308)

平成 26 (2014) 年度

コーパス頻度データの統計的加工 (No. 340)

平成 27 (2015) 年度

応用言語学研究における計量手法の検討 (No. 353)

平成 28 (2016) 年度

統計的アプローチで探る応用言語学と外国語教育のインタフェース (No. 373/374)

平成 29 (2017) 年度

コーパスから得られた頻度情報の計量処理に基づく多言語の特性解明 (No. 400)

平成 30 (2018) 年度

言語特性の量化によるテキストの探索的・検証的分析 (No. 414)

令和元 (2019) 年度

言語テキストの内的構造に対する数理的アプローチ (No. 435)

令和 2 (2020) 年度

第二言語の言語知識と言語産出の関係性の解明:統計的アプローチによる検討 (No. 444)

令和 3 (2021) 年度

言語データと学習データの融合的処理に関する統計的考察 (No.456)

令和 4 (2022) 年度

言語・学習・統計:統合的アプローチの検討 (No. 465)

No. 465 目次

石川慎一郎	
はじめに	i-iii
陳迪 (神戸大学院生)	
中国語を母語とする日本語学習者の発話における高頻度漢語動名詞の使用 実態—「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を用いた調査—	1-22
張晶鑫・陶怡楽 (湖北大学)	
中日両言語における「兎」使用の比較—使用頻度・比喻・ことわざの観点か ら—	23-33
飯島真之 (神戸大学院生)	
日本人学習者の英作文における確信度副詞使用実態—アジアの EFL 圏 6 地 域の比較—	34-54
今道晴彦 (広島大学)	
ゲルマニスティック分野間の学術テキストに関する計量的考察—語彙・品 詞・N グラムに注目して—	55-65
井上聡 (環太平洋大学)	
質問づくりが「主体的・対話的で深い学び」にもたらす影響—探究プロセス を活用したアクティブ・ラーニングの試み—	66-77
石川慎一郎 (神戸大学)	
L2 英語学習者による説得型ロールプレイ発話の評価—評価指標間の関係性 の解明と発話スタイル別サンプルの検討—	78-91
森下裕三 (桃山学院大学)	
コサイン類似度による英語の経路動詞の意味分析可能性を探る	92-104
中尾桂子 (大妻女子大学短期大学部)	
音素に基づく性差判別の試み (再認) —BCCWJ の創作会話と CWPC の自 然会話を比べて—	105-117
廉沢奇 (神戸大学院生)	
学習者コーパス調査をふまえた日本語学習者の ABAB 型基本オノマトペの 使用実態の解明	118-134
曹卓琦 (湖南農業大学)	
コーパスから見た中国語を母語とする日本語学習者における数量表現使用 の問題点	135-154